

平成31年 東北大学前期日程試験【英語】問題分析

1 今年（H31）の傾向

総評・講評（大問毎に）

【総評】

長文読解2題、対話文読解1題、和文英訳1題。大問構成は昨年同様。設問数は13で、昨年比で1問減であるが、こちらも例年とほぼ同様の構成であった。

問題文全体の分量は増加したが、読解文自体の読み易さが増したため、難度としては昨年並み。ただし、記述量が増えたため、日頃から「書く」練習をしていなかった生徒にとっては、手強い問題だったことだろう。

大問1、大問2は、英文自体を読み進めることにさほど苦労はしないかもしれないが、採点官を満足させる答案を作成するとなると、かなりの工夫と時間が必要になる。

【大問分析 I】

意思決定における直感の役割と、直感をうまく機能させる仕組みについての論説文。文章の量はやや多め。しかし英文に難しい単語や構文は含まれていないので、読解自体には苦労しないはずである。記述問題×3(説明問題1題、和訳問題2題)の構成。説明問題の解答欄が10行あり、これにどう対処できたかが、全体に大きな影響を与えたであろう。

問1 下線部についての説明を日本語で記述する問題。‘the whole thing’の内容を具体化して記述するよう求められている。該当箇所は第1、第2段落全体であるが、この範囲の情報をすべて解答用紙に記すのは不可能。そこでなんらかの基準に従って要約、ないしは情報の取捨選択を行うのだが、下線部直前の文の **thoroughly, systematic, rational, scientific** という4つの語をキーワードに情報を取捨選択すると、過不足のない答案が書ける。

問2 下線部和訳問題。意思決定が必要な具体的な事例に相当する部分の和訳を求

められている。下線部3文目は ‘You had better give’の冒頭の2語が省略された構造。

問3 下線部和訳問題。the + 比較級の構文。The more ~availableまでが従属節(条件)の役割を果たし、後ろ二つの節がその主節(結果)に相当する。patternとaction scriptが本文でどのような意味で使われているのか、下線部の前後からうまく情報を拾って表すとよい。二つ目の節に含まれるexpertiseは、そのpatternとaction scriptを通じて得られるもので、かつ、結果として意思決定に役立つものである、という文脈理解から訳語を決定する。

問4 下線を付された表現についての説明文を完成させる問題。選択肢×4題。

①は、本文第7段落、②は、本文第8段落を参照。③は、本文第11段落を、④は本文第8段落最終文を参照すると、迷いなく解答できるであろう。

【大問分析 II】

本文では、大人に干渉されない自由な「遊び」が子どもの発達に重要な役割を果たすことが論じられている。筆者の基本的な立場は子どもの生活に過度に干渉する現代の教育を批判したPeter Grayに依拠しており、自由な「遊び」が大人になるための「学び」の根幹にあることを主張している。長さは近年の東北大の長文問題としては標準的である。主旨は明確であり、語彙・構文の面からみても比較的読みやすい。設問は説明記述が1問、英文和訳が2問、記号選択(空所補充・文整序)が2問である。説明問題の解答を本文のどの個所に依拠して作成するか、がやや難しい。

問1は下線部(A)の主張の理由を日本語で説明する問題。下線部の意味は「遊びを追放することは規格化された教育の大きな悲劇の一つである」。この理由として押さえておくべき点は3つある。第一に、本文では「遊び」に教育上の大きな役割があると認識されていること。これは第一段落でも触れられているが、後述する第二の理

由から第5段落第3文(It(=free play) is also the primary means…)と第6段落第4文に注目したい。「自由な遊び」が子どもがうまく成長するために必要な学習手段の一つであることを押さえておこう。第二に、今の規格化された教育には大きな問題があるということ。これは第2～4段落から大人が子どもの生活に介入しすぎていることが読み取ればよい。この意味で、本文が強調している「遊び」は自由なもの(=free)でなければならない。第三に、なぜ「悲劇」とみなされるかを説明する必要がある。下線部(A)のthe great tragediesは第4段落でa tragic loss for our childrenと言い換えられており、この悲劇的な喪失の帰結が述べられているのが第5段落第1文(Lack of free play…but it kills the spirit and stops mental growth)である。子どもの成長を阻害することになるからこそ、自由な遊びがないことは「悲劇」と呼ばれる。以上の3点を整理して解答を作成する。下線部(A)の直前の「規格化された教育が遊びを軽視している」ことだけで理由を組み立てようとすると、なぜ「悲劇」なのかが説明されないままになってしまうので注意が必要だ。第6段落第1文でI couldn't agree with him moreと述べられているように筆者はGrayの議論に依拠しながら自分の主張をしている。Grayの議論の内容を主張の理由にうまく組み込んで解答を仕上げたい。

問2は下線部和訳。注意点は3つ。まず、第1文がNot only…but (also)…の構文であることを見抜く。次に第1文のless playfulは本文全体の主旨から「遊び」(の時間・機会)が少なくなることを表している。最後に、第2文の分詞構文eating into time…は主節の結果を表現し、宿題が増えることが「(時間を)侵食している」ことを示している。

問3も下線部和訳。注意点は2つ。第一に、文の主語はNothing that we doであり、動詞はcan compensate…、その間に挿入されているno amount of toys…give our childrenは主語を具体的に言い換えたものである。第二に、主語Nothing、その言い換えno amount of…は「何をしても」「どんなに～しても」のように譲歩のかたちで訳すと良い。

問4は語句の空所補充。空所の直前にある主語standards movementは第1段落にも登場するが、下線部(A)のstandardized educationの言い換えである。したがって、規

格化された教育の特徴を述べた（ウ）が正解。本文の主旨である「遊び」の機会を奪っているという選択肢の内容も文脈に沿ったものになっている。

問5は文整序。空所(E)の直前で述べられている靴の比喩が内容を推測するヒントになる。選択肢の文に出てくる代名詞とそれが指すものに注目すると、(イ)のthe systemとthe peopleがそれぞれ(ア)ではitとthemに置き換えられていることから(イ)→(ア)の順序が確定する。残った(ウ)はthe changeに定冠詞がついて既出の「変化」を指していることに注目だ。これはその前に(ア)が入ると、そこでto change itを指していると読める。それゆえ、(イ)→(ア)→(ウ)が正解。

【大問分析 III】

科学技術とコミュニケーション方法についての討論を読んで設問に答える問題。

問1は本文の内容と一致するものを5つの選択肢から2つ選ぶ。昨年同様間違いの選択肢がわかりやすいので、消去法で正解を導き出せる。確実に得点することが求められる。問2は、「コミュニケーションのための科学技術によって、より孤独になるかどうか」というテーマに反対の意見を、少なくとも2つ理由を挙げて述べる問題。本文で賛成の意見が述べられているので、それに反論する内容を盛り込むとよい。なお、昨年度出題された空欄に語句を補充する問題は今年はお出題されなかった。

問1 (1)本文3行目にannuallyという単語がありディベート大会は毎年開催されているので、every other yearが明らかな間違い。(3)ジョーンズ教授の最初の発言5行目にsome would say ...とあるのでこれはジョーンズ教授の考えではないとわかる。(5)レッド・チームのキャプテンの発言の第3段落でCNNが伝えているのは、9時間費やしているということだけであり、それがunusual way to liveだとは述べていない。以上の3つが明らかに間違いなので、正解は(2)と(4)となるが、(2)が対応しているのはレッド・チームのキャプテンの発言の第1段落too absorbed ...、第4段落のtoo obsessed ...の部分。(4)はレッド・チームのキャプテンの最終段落Technology cannot replace ...の部分が判断しやすい。

問2 自由英作文だが、与えられたテーマの賛成意見が本文として与えられているので、反対の理由を自由に思い浮かべるのではなく、反論となる理由を思い浮かべたほうが説得力のある答案になる。例えば、インターネットでの人間関係は幻想だという意見に反論する形で、「オンライン上でも人間関係は豊かになるから、孤独ではない」と主張する。昨年度は本文に書かれていない発明品を自分で思い浮かべなければならなかったが、今年は本文をヒントにして、書く内容をまとめることができるので、そういう意味では書きやすいかもしれない。

【大問分析 IV】

・ 出典は、外山滋比古『思考の整理学』より。

主題は明確。「グライダー能力」と「飛行機能力」が同一人物に同居しているが、コンピューターが普及している現代では、自発性を発揮できる「飛行機能力」を強化しないと仕事を奪われかねないという内容。

・ レベルは例年並み。センター試験での読解レベルの語彙力や構文力があれば(A),(B)ともに取り組みやすい。

・ 注意点としては、単語や語句を日本語と一対一対応させすぎないこと。

(A)では、「一人の人間の中に同居している」の主語が人間ではなく「両者(の能力)」なので **live together** は避けたい。 **These abilities lie together in one person.**

「同居」にとらわれず、 **Each individual has both abilities.** と工夫してもいい。

「前者」「後者」の **the former, the latter** は必須。万一思い浮かばない場合は、 **the first one, the second** を用いてみる。

(B)では、「グライダー専業」の表し方に工夫が必要。

形容詞節を用いるなら、those who resort only to the glider ability

名詞節でいくなら having only 'glider' ability

「安心してられない」

簡単なのは don't feel at ease。意識して、cannot be satisfied も可。

「グライダー能力の持ち主があらわれた」がやや難。

「持ち主」は「コンピューター」のことなので、くれぐれも owner は用いないこと。

「あらわれた」は社会現象を意識しているわけだから、「普及」と読み換えて spread を使うと自然な表現になる。the spread of computers, which have the excellent glider ability superior to that of humans。

「コンピューターに仕事を奪われる」

コンピューターを主語にするなら、take the place of the people

人間を主語にするなら、be replaced by computers

・解答順が読解から始まって、最後に英作文に向かう場合、読解文で出会った単語や語句を使える場合がしばしばある。今回なら、「知識を得る」「自分で」に活かせる語が第Ⅱ問に出ている。acquire the physical and intellectual skills, と on their own。

・英作文は語彙力テストではなく、日本文を少しでも英文らしく表現することを課題としている。なによりも日本文の内容を噛み砕き分かりやすく読み換えられる力が求められる。読解演習の際には、まとまった部分を口頭でも言えるように暗記しておくことも役に立つ。

2 合否ライン（予想）※他の教科が合格ラインをとったときの得点（％）予想

【文系】

| | |
|------|-----|
| 文学部 | 60% |
| 教育学部 | 60% |
| 法学部 | 65% |
| 経済学部 | 60% |

【理系】

| | | | |
|-------|-----|-----|-----|
| 理学部 | 70% | 歯学部 | 70% |
| 工学部 | 70% | 薬学部 | 70% |
| 医学部 | 75% | 農学部 | 70% |
| 保健／看護 | 60% | | |
| 〃 検査 | 60% | | |
| 〃 放射線 | 60% | | |

3 来年受験する生徒へのアドバイス

英文を「読む」ことに時間と労力がかかってはいけない。素早く読み取り、読み取った内容を分かりやすく整理し、それを書き表す能力が求められている。広い意味での情報処理能力を鍛えたい。

そのためには、日頃から一定量の英文を読み通す訓練を続けることは当然として、読み取った内容を日本語でまとめる練習が必要である。和訳を書き出すだけでなく、積極的に日本語および英語での要約に挑戦し、指導者に定期的に添削をしてもらうのが近道だ。自分の書いた情報が、他者にとってはどう判断されるかは、自分ではなかなか分からないからだ。

英作文も同様だ。意見論述であれ、和文英訳であれ、文法ミスや不自然な表現などは自分では気づきにくく、よって弱点を補強しづらい。必ず指導者に添削を受け、知識と技術の修正と補強を繰り返そう。